

大学生のコンピュータに対する情意的態度

—女子短期大学1年生のコンピュータ親和感情—

永 井 靖 人

要 旨 本研究の目的は、高校で教科「情報」を履修した2006年度現役大学新生のコンピュータ、パソコンに対する情意的態度を量・質的に分析することにあった。情報処理を専攻しない女子短期大学1年生69名を対象として、安達・中尾・井口（1994）の「コンピュータ親和度」尺度および自由記述形式による意識調査が行われた。その結果、2006年4月におけるコンピュータへの情意的態度のうち、親和感情は12年前よりも低下していることが示された。それは、コンピュータへの「好感」度の低下によるところが大きいと考えられた。また、自由回答からは、ネットワークに対する評価が学生のコンピュータ、パソコンへの情意的態度に大きな影響を与えることが示された。

abstract

To analyze the affective attitudes toward computers of freshmen who had learned “information” at high school and entered this junior college in 2006, attitude survey evaluated 69 freshmen who did not major in information processing. The analysis showed the lowered computer affinity down from 12 years ago, mainly caused by the lowered favorability rating toward computers. The replies to questionnaires showed the large effects of network evaluation on their affective attitudes toward computers.

1. はじめに

2006年の全国大学生活協同組合連合会による調査で、大学生の約75%、つまり4人のうち3人は、自分専用のパソコンを持っていることが明らかとなった。家庭にはあるというケースを含めると、所有率は約95%に達するという。また、2006年度以降の現役大学入学生は、高校で「情報」を履修しており、男女、文理を問わず、誰もが一定のコンピュータ・リテラシーを有するようになった。このように、普及率や操作時間は上昇、増加する一方であるが、使う者の心理は、どのような状況にあるのだろうか。元来、コンピュータ、パソコンには、使用する者に不安や緊張、依存をもたらすなど、マイナスの側面が見出されてきた。オフィス労働においては、ブロード（1984）の「テクノストレス」、情報教育の分野では、平田（1990）以降の「コンピュータ不安」がその代表である。21世紀に入り、コンピュータをめぐる諸問題は、サイバー犯罪など、インターネットに焦点が移った感があるが、使用することに起因するストレスは、普及率や操作性の向上とともに、過去のものとなったのであろうか。そして、コン

ピュータは誰もが親しみをもち、積極的に使う機械となったのであろうか。そこで、本研究では、高校で「情報」を履修してきた2006年度大学新生のコンピュータに対する情意的態度のうち、親和感情については安達・中尾・井口（1994）の「コンピュータ親和度」尺度により測定し、量的に分析する。そして、コンピュータへの情意的態度の全体的様相を学生の自由記述から質的に分析、検討する。

2. 方 法

調査時期 2006年4月

調査対象者 情報処理を専門としない女子短期大学1年生69名。

質問紙 井口・中尾・安達・橋本（1991）が作成、安達他（1994）により修正の「コンピュータ親和度」尺度は、コンピュータへの親和感情を肯定する因子と否定する因子により構成され、肯定する因子は「好感」（14項目）と「適応」（9項目）の2因子に、否定する因子は「不安」（7項目）の計3因子に下位分類されている（表1）。調査対象は女子短期大学1年生290名で、調査時期は1993年の4月であったので、本研究と統計量を比較することができる。回答

方法は、「1. まったくあてはまらない」、「2. あまりあてはまらない」、「3. どちらともいえない」、「4. ややあてはまる」、「5. とてもよくあてはまる」の5段階評定である。

また、「コンピュータ親和度」の測定とあわせて、自由記述形式による「コンピュータに関する意識調査」を行った。実施に際しては、パソコンの好きな点、好きになれない点を書くよう教示した。

3. 結果と考察

(1) 量的分析

本研究における得点化の方法であるが、「好感」と「不安」においては、表1の※項目(2、4、6、10、12、13、14、15、16、17、23、25、27、29)を逆転処理し、該当項目の単純合計を「好感」、「不安」得点とした。「適応」は、該当項目の単純合計を「適応」得点とした。そして、「好感」得点、「適応」得点、「不安」得点の総和を「コンピュータ親和度」得点とした。項目ごとの平均値を表1に、各因子および「コンピュータ親和度」得点の基本統計量を表2に、度数分布を図1～4に示す。安達他(1994)における平均値、標準偏差は表1(平均値のみ、「1994年」と記す)および表3に示す。

表1 「コンピュータ親和度」尺度の項目と平均値(SD)

因子	質問項目	2006年	1994年	
好	1 PCの前に座ると、期待感がわくわくする。	2.8(0.99)	3.9	
	2 ※PCは思い通りに動かないのでキライである。	3.3(1.00)	2.6	
	4 ※PCを使うのは苦痛である。	2.7(1.20)	2.5	
	7 できるだけ長時間PCに触れていたい。	2.1(0.95)	3.2	
	12 ※うまく操作できないので、PCを使いたくない。	2.7(1.38)	1.8	
	14 ※PCを使ってレポートをつくるのはイヤだ。	3.3(1.37)	3.1	
	17 ※必要なときでも、なるべくPCは使わないようにしたい。	2.5(1.19)	1.9	
	18 PCを使うのは、気分がいい。	2.5(0.97)	3.5	
	23 ※PCは、決まりきった反応しかしないのでキライだ。	2.6(1.11)	2.1	
	25 ※PCには、ほとんど親しみを感じない。	2.9(0.99)	2.5	
感	26 PCを使う機会を楽しみにしている。	3.0(1.12)	4.3	
	27 ※将来は職場では、なるべくPCを使いたくない。	3.0(1.13)	2.2	
	28 PC操作のエキスパートになりたいと思う。	2.7(1.19)	3.9	
	30 PCは自分の言いなりに動くので楽しい。	2.2(0.92)	3.3	
	不	6 ※PCの前に座ると、怖いような感じがする。	2.0(1.12)	2.0
		10 ※PCを使っている間は、恐ろしくて緊張している。	2.1(1.16)	2.3
		13 ※操作を失敗するのではないかと、いつも不安である。	3.0(1.26)	3.1
		15 ※PCの操作中は、突然何が起こるのかわからないので不安である。	3.1(1.28)	2.7
		安	16 ※PCを使っていると、頭が混乱してしまう。	2.9(1.25)
	21 PCを使い終わると、疲労感を覚える。(不採用)		2.7(1.30)	3.3
29 ※PCの前に座ると、どうしたらよいのかわからなくなる。	3.8(1.07)		2.5	
適	3 PCを使っている間、考えが混乱することはない。		2.6(1.14)	2.7
	5 PCを使っている間は、落ち着いた気分です。		2.3(0.83)	2.7
	8 PCの前に座ると、次々にアイデアがわいてくる。	1.7(0.74)	2.1	
	9 PCの操作方法を忘れてしまう不安はない。	2.1(1.01)	2.0	
	11 操作を間違えても、特に緊張することはない。	2.7(1.18)	2.5	
応	19 落ち着いてPCを使うことができる。	2.8(1.05)	3.0	
	20 自信をもちつづけながらPCを操作できると思う。	2.1(0.88)	2.6	
	22 自分の操作に対して、PCがどう反応するか予測できる。	2.1(0.91)	2.4	
	24 PCを操作するときには、リラックスしている。	2.6(0.94)	2.9	

注) PCはコンピュータの意

表2 本調査における「コンピュータ親和度」尺度の基本統計量 N=69

	好感	不安	適応	親和度
平均	40.8	21.8	20.9	81.9
95%区間	2.5	1.4	1.5	4.9
5%トリム	40.9	21.5	20.9	82.1
中央値	42	21	20	86
分散	109.0	35.2	37.0	410.1
標準偏差	10.4	5.9	6.0	20.1
最小値	18	13	9	40
最大値	65	34	36	129
範囲	47	21	27	89
尖度	-0.35	-0.72	-0.50	-0.65
歪度	-0.30	0.55	0.17	-0.27

表3 安達他(1994)における「コンピュータ親和度」尺度の平均値と標準偏差 N=290

	好感	不安	適応	親和度
平均	51.4	20.8	22.6	94.8
標準偏差	9.1	5.2	6.2	17.3

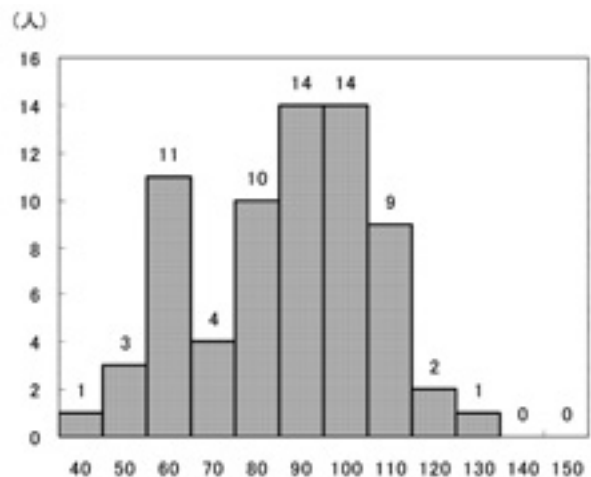


図1 「コンピュータ親和度」得点の度数分布 (29項目, 29-145点, N=69)

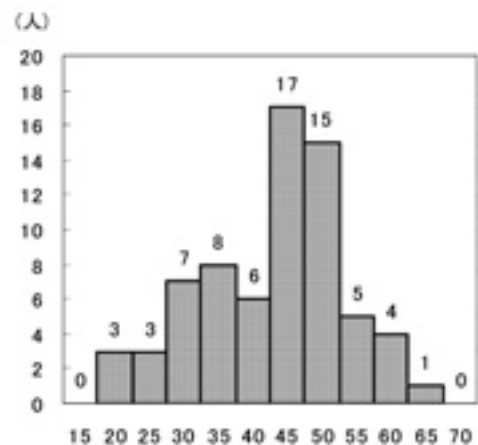


図2 「好感」得点の度数分布 (14項目, 14-70点, N=69)

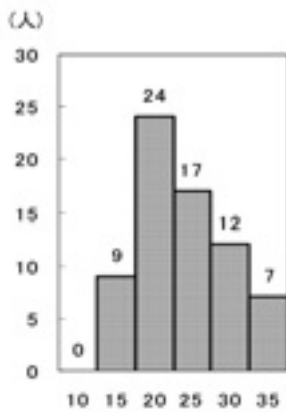


図3 「不安」得点の度数分布
(7項目, 7-35点)

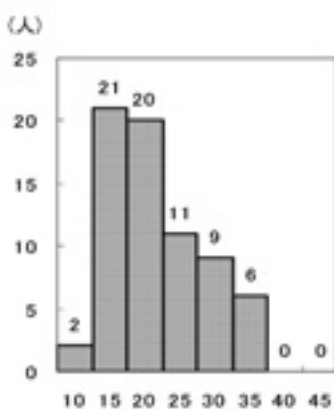


図4 「適応」得点の度数分布
(9項目, 9-45点)

全29項目への反応得点の合計で表される「コンピュータ親和度」得点(29-145点)は、すべての項目を3と評定、合計すれば87点となる。本研究における平均値は81.9点($SD=20.1$)であった。安達他(1994)の平均値94.8点($SD=17.3$)と比較したところ、本研究の方が有意に低かった($t(357)=5.37$, 1%水準)。よって、情報処理を専攻しない女子短期大学1年生4月時点でのコンピュータに対する親和感情のレベルは、尺度上は中程度、もしくはやや低めというところであるが、12年前の女子短期大学1年生よりも低いといえそうである。

次に、「コンピュータ親和度」を因子別に見た場合、「好感」(14項目, 14-70点)については、平均値は40.8点($SD=10.4$)で、評定値オール3の計42点と同程度であった。しかし、安達他(1994)の平均値51.4点($SD=9.4$)と比較したところ、本研究の方が有意に低かった($t(357)=8.22$, 1%水準)。「不安」については、平均値は21.8点($SD=5.9$)で、評定値オール3の計21点と同程度であった。

安達他(1994)における「不安」の平均値20.8点($SD=5.2$)と比較したところ、本研究との差は有意でなかった($t(357)=1.35$, *n.s.*)。「適応」(9項目, 9-45点)については、平均値は20.9点($SD=6.0$)で、評定値オール3の計27点よりもかなり低い。安達他(1994)の平均値22.6点($SD=6.2$)と比較したところ、本研究の方が若干低い程度であるが、その差は統計的に有意であった($t(357)=2.05$, 5%水準)。よって、「好感」「不安」のレベルは、それぞれ尺度上は中程度であるが、「適応」は低い。12年前の短大1年生と比べた場合、「不安」のレベルは大きく変わらないものの、「好感」「適応」度は低くなったといえそうである。

以上から、情報処理を専攻しない女子短期大学1年生4月におけるコンピュータへの親和感情は、目盛りの上では中程度、または若干低い程度であるが、12年前の女子短期大学1年生よりも低くなっていた。それは、コンピュータへの好感度の低下によるところが大きいといえよう。

(2) 質的分析

「コンピュータに関する意識調査」への自由回答のうち、「コンピュータ親和度」得点の最上位の者を除いた上位6名、平均値から中央値にかけての6名、最下位を除いた下位6名の回答の要約を以下に、詳細を表4に示す。

① 親和度上位6名(表4のA、B、C、D、E、F)

- a. 多機能性への高い評価
- b. インターネットの有用性
- c. マルチメディア機能への高い評価
- d. 文書作成・処理における利便性
- e. 操作に対する高い効力感
- f. 機械類への親近感
- g. 情報収集の難しさ
- h. 情報管理への不安
- i. サイバー犯罪への不安
- j. 用語理解に対する困難感
- k. 視・入力作業に伴う眼・肩の疲労とその不安

② 親和度中位6名(表4のG、H、I、J、K、L)

上記a、b、c、d、e、g、h、i、j、kに、以下が加わる。

- l. 多機能性への低い効力感
- m. 操作に対する低い効力感
- n. 操作不安
- o. 高校の「情報」で認知された劣等感

③ 親和度下位6名(表4のM、N、O、P、Q、R)
 上記g、h、i、j、k、l、m、nに、以下
 が加わる。

- p. 接近一回避の感情
- q. 機械類を回避する感情
- r. 操作にかかる認知的コスト回避

以上の多くは、1990年代のコンピュータ不安研究によって明らかにされてきたことであるが、コンピュータへの情意的態度は、操作に対する効力感や機械類への親近感の高低に影響することが改めて示された。視・入力作業により生じる眼、肩、認知の疲労も、「コンピュータ親和度」得点の高低に関係なく、広く懸念されていた。しかし、今回の調査結果で目をひいたのは、ネットワークに関する記述(b、

g、h、i)である。特に接続への不安は、親和度得点の高低に関係なく、広い範囲で認知されていた。また、親和度の低い者は、ネットワークの有用性に触れていなかった。しかし、この状況は端末機器が携帯電話になると一変する。高額な料金負担、いじめ、詐欺、殺人事件など、深刻な問題が日々報じられているにもかかわらず、中高生、大学生の携帯電話を介したネット接続率は非常に高い。内閣府が2007年7月に発表したところでは、中学生で約6割、高校生は9割にも上る(「第5回情報化社会と青少年に関する意識調査について(速報)」)。よって、ネット接続への不安は、端末がコンピュータ、パソコンであるからこそ生じるもので、端末機器操作に対する効力感、統制感がネット接続への不安に強く影響

表4 「コンピュータに関する意識調査」への回答(自由記述)

対象者	親和度	好感	不安	適応	回答内容
A	111 高	57	18	30	○小中高とも情報の授業があって、慣れているから ○インターネットをよく利用したから ○機械系が得意だから ○パソコンは自分にとって身近な存在 ○便利だし、何にでも使える ○文章を書くより、打つ方がきれいで早い ○インターネットでいろいろな情報が見られる ○打つのが楽しい ○楽に表をつくれる ○手書きよりきれいに見える ○高校のときにワープロ検定やパソコンの授業があって、操作に慣れたから ○DVDが観られて、音楽も聴ける ○すぐに太字にできたり、ワードアートとか、いろいろな字体の文字ができる ▼思った通りに動いてくれないときはイヤになる ▼長時間やっていると目が疲れる ▼難しい言葉が多い ▼画面にいきなり変なメッセージが出ると、どうしたらいいか困る ▼欲しい情報が出てこないときはイヤだ ○インターネットでリニュースなど、リアルタイムで情報が得られる ○手書きよりも早く、見た目もよい ○ホームページ、ブログなど、オンラインで世界が広がる ○アートの世界でも、アナログにはない魅力がある ▼ウィルスなど、対処が難しい問題があるのはイヤだ
B	110 高	54	15	29	○調べたいことがすぐにわかるし、関連することもすぐに出てくるのがいい ○音楽を聴きながら操作できるのがいい ○いちばん早く情報が手に入る ▼どの情報が正しいかわからないのは困る ▼セキュリティやウィルスとかが大変
C	110 高	59	20	29	○すごく便利 ○インターネットでいろいろなことが調べられる ○DVDやTVが観られる ▼操作が難しいのがイヤ ▼すぐに新しいもの出て、古いのが使えなくなるのは困る ▼インターネットへの接続がむずかしいのが嫌い ○昔からパソコンをやっている、メールやインターネットをやっているから ○チャットなどをやったりして楽しい ○キーボードが比較的スムーズに操作できる ○インターネットにつなげば、知りたい情報を手に入れられる ○ネットを通して、いろいろなところに住んでいる人や自分と違った意見をもつ人と意見交換ができる ▼目が痛くなったり、肩が凝ったりして、長時間やると疲れる ▼ウィルスなどにかかってしまう ▼情報は多いけど、それが自分の欲しい情報なのか、正しい情報なのかを見極めるのが難しい ▼用語が難しい
D	109 高	57	17	27	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
E	109 高	55	15	27	○高校が情報科だったので、パソコンを触る時間が多かったので、どちらかといえば好き ○Visual Basicやワープロがいちばん好き ▼Excelは嫌い、計算が苦手 ○高3でWebページ作成を習ったとき、はじめは難しく嫌いだったけど、だんだんおもしろくなって、少し好きになった ▼作業が細かい ▼英語が苦手 ▼キーが多い ▼情報の先生が嫌いだった ▼高校のとき、1台壊してしまった ▼日常であまり使わない ▼英字のキーの意味がわからない ▼わけのわからない表示が出るのがイヤ ▼画面に出ている絵などの意味がわからない ▼インターネットでの調べ方がよくわからない ▼使い方がよくわからない ▼普段使わないので、覚えられない ▼ネットでよく事件が起きているので、開くのが怖い ▼細かいことが分かっていない
F	105 高	51	17	29	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
G	86 中	45	17	16	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
H	86 中	41	21	24	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
I	86 中	44	20	20	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
J	85 中	41	15	17	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
K	84 中	46	24	20	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
L	84 中	49	26	19	○レポートなどをまとめるときに、パソコンの方が疲れなくて、便利 ○いろいろな機能がついていて、楽しい ○調べたいものがあるとき、ネットですぐ検索できるから ▼操作することに慣れていないので、壊してしまいそう ▼基本的に機械を使いこなせない ▼情報が豊富なので、どこで何を調べたり、見たりすればいいかわからない ▼少し操作しただけで、お金を請求されることもある ○使えるようになったら、すごく便利になる ▼機能があまりすぎて、どれを押したらいいかわからない ▼違うところを押したら壊れそうで怖い ▼文字を打つのが遅いので、人と差がついてしまってイヤだ ▼長時間やっていると、目が痛くなったりする ▼先生の話を聞きながらやるのが苦手で、少しでも遅れると、それから先が全部わからなくなってしまうことがあった ▼ひとりひとりでやるので、自分は間違っていないか不安になる ▼1回やったときにやろうとしても、忘れていたのに、先生が教えてくれないので、わからないままになってしまうことがあった
M	52 低	27	29	12	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう
N	52 低	27	29	12	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう
O	51 低	31	34	12	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう
P	50 低	31	32	9	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう
Q	45 低	25	34	12	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう
R	42 低	19	28	9	▼ややこしいから ▼個人情報情報が漏れていそうだから ▼詳しくなくて、詳しい人が身近にいないから ▼インターネットは便利だけど、本やモノを買うのは面倒だし、だまされそう ▼壊れたら困る ▼調べたいことをうまく調べられないから ▼家にパソコンがあるけど、使おうと思わない ▼操作が不安だし、目がチカチカして、頭が痛くなる ▼次の作業をするときの起動の時間が嫌い ▼レポートをパソコンで打って保存すれば何年もきれいなまま見られるけど、つくった資料がちゃんと保存されているか心配になってしまう ▼カタカナ用語が嫌い ▼レポートでグラフを使うときはパソコンのほうがいいかもしれないけど、手書きでいっても手もとにあるほうが安心 ○レポートやCDの取り込みがしたいから、家でも多少はやってみようと思う ▼すぐ操作がわからなくなる ▼壊しちゃうから怖い ▼思い通りにならないとムカつく ○使いこなせるようになったら楽チン ▼操作が難しいから覚えられない ▼精密機械で、値段も高いので、壊したら怖い ▼面倒くさい ▼ローマ字で打つときに、わからなくなってしまうことがある ▼インターネットを開いていて、変なところにいきなり入ったりすると怖い ▼不器用で早く打てないので、手で書いた方が早いと思うから ▼キーボードに英語が多い ▼本当にパソコンが嫌い ▼もともと機械オンチ ▼うまく操作できない ▼みんなはできているのに、自分だけができていないと感じることが多かった ▼インターネットは、見たり調べたりするだけ ▼パニックになって、なんだかわからなくなることがよくあった ▼「どのキーを押したら何ができるか」「クリックしたら何ができるか」もわからない ▼機能が複雑でどうなっているかわからない、ヘタすれば壊してしまう ▼高校のときに壊しかけて嫌いになった ▼パソコンもコピー、ビデオも、機械系はとにかく嫌い ▼手で書いた方が早い ▼キーボードがよくわからない ▼すぐ壊れるから ▼ボタン1つ押しただけで、変な画面になったりして、わからなくなってしまう

注) ○はコンピュータに対して肯定的、▼は否定的であることを表す

するものと考えられる。とはいえ、ネットワークとコンピュータとの関係は、不可分なものになりつつある。ユーザーのネットワークに対する評価は、コンピュータ、パソコンへの情意的態度に、大きな影響を与えることが学生の回答から確認できた。

次に、2006年度の現役大学入学生は、高校で「情報」を正式な教科として学習しているが、その過程で得た劣等感を記した者が69名のうち6名いた。高校卒業後も「情報」を教えた教師への不信感や同輩への劣等感、苦手意識がコンピュータ、パソコンに転移し、長期にわたって維持される可能性は十分にある。今後、ユーザーと教科「情報」との関係は、学生だけでなく、成人一般のコンピュータ、パソコンに対する意識を研究する上で、重視すべき要因の1つになると考えられる。

4. まとめ

本研究では、高校で「情報」を履修した2006年度の大学新入生のコンピュータに対する情意的態度を安達・中尾・井口（1994）の「コンピュータ親和度」尺度により測定し、量的に分析するとともに、情意的態度の様相を学生の自由記述内容から質的に把握することを目的とした。

「コンピュータ親和度」調査の結果、情報処理を専門としない女子短期大学1年生4月におけるコンピュータへの親和感情は、目盛りの上では中程度、または若干低い程度であるが、12年前の女子短期大学1年生よりも低くなっていた。それは、コンピュータへの「好感」度の低下によるところが大きいと考えられた。

自由記述への回答を分析した結果、大学生のコンピュータ、パソコンへの情意的態度に、ネットワークに対する評価が大きな影響を与えることが示された。また、今後は、教科「情報」が学生を含む成人とコンピュータとの関係を考える上での重要な要因の1つとなることも示された。

文 献

安達一寿・中尾茂子・井口磯夫 1994 コンピュータ親和度の定式化とそれを用いた学習者集団のグルーピング方策、教育情報研究、9(4)、15-22.

ブロード、C. 池央耿・高見浩（訳） 1984 テクノストレスーコンピュータ革命が人間に突きつける代償ー 新潮社

平田賢一 1990 コンピュータ不安の概念と測定 愛知教育大学研究報告、教育科学、39、203-212.

井口磯夫・中尾茂子・安達一寿・橋本克己 1991 短期大学生のコンピュータ親和度の分析、教育情報研究、7(2)、31-42、1991.